

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2020年2月25日]

1月の農業情報

タイトル キャベツの収穫はアシストスーツで軽労化

とき 令和元年12月

ところ キャベツ生産者ほ場(田原市)

主体・対象 JA愛知みなみ常春部会(383名)

内容

キャベツの収穫作業は、①収穫する株に進み前かがみになる、②包丁で切る、③持ち上げて調製する、④コンテナまたは運搬車に載せる、を繰り返す。

前かがみの姿勢を長く続けていると腰への負担が大きくなる。収穫作業の軽労化を図るため、作業姿勢を矯正し腰への負担軽減が期待されるアシストスーツの効果を確認した。

多くのアシストスーツが登場しているなか、無動力タイプの「サポートジャケット Bb+FIT WIDE」で検証した。

生産者9名に対してキャベツ収穫作業の姿勢を調査した結果、前かがみの角度は84～101°だった。また「膝を曲げるまたは曲げない」、「重心を両脚にかけるまたは片脚にかける」、「背中がまっすぐまたは曲げる」のように作業姿勢には個人差があることがわかった。

アシストスーツを装着した場合で比較すると、前かがみ姿勢は装着前が90°で、装着後は87°となり、前かがみ姿勢は3°改善された。収穫したキャベツを持ち上げる際、腰から膝に付けたベルトが縮むことで上体が起こしやすくなり、腰への負担が軽減されることが確認できた。

農業改良普及課は、農作業の軽労化にも注目しており、今後も様々な視点から野菜生産に係る情報提供を行っていく。



アシストスーツ装着時の作業姿勢